

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立待賢幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				自己評価			学校関係者評価	
評価項目		(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	アンケート実施結果、 その他指標の結果に ついて整理	評価日	平成28年9月12日	評価日	平成28年10月12日
				アンケート結果・ 各種指標結果	評価者・組織	教職員	評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・行事主体から子どもの生活を主体とした保育 ・園内研修・エピソード研修の充実	・園だより「子どもの姿」による事例検討 ・アンケート項目「子どもはめあてをもって登園していますか」	・子どもの遊ぶ姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「できる」82%	・研究主題を保育の改善にし、研究とリンクさせたので教師に意識ができ、子どもの良い変容が見られつつある。 ・保護者アンケートの結果良	・主体性が発揮できる遊びの環境構成に改善が見られた。2学期以降は、計画的に見通すことを課題として取り組んでいく。	・運動会での子どもの様子を見ても、子どもが生き生きとしー人一人を大切にしたい保育がされている。	・幼稚園での子どもの育ちを地域でもしっかりと見守り育てていきたい。
	幼小接続の視点	・管理職による定期的な情報交換 ・「互いを知る」ための教職員研修や子どもの交流の推進	・定期的な情報交流 ・公開保育と研修の回数 ・アンケート項目「めざせ100冊親子で読書の取組は楽しめていますか」	・交流の年間計画実施率90% ・5歳児後半の指導計画の見直し ・活用率100%	・管理職が中心となり話し合いを重ね、計画的に取り組むことができた。 ・読書については、100冊達成率は77%。	・交流の事前打合せだけでなく、事後も丁寧に行っていく。 ・100冊読書が達成できるよう保護者に啓発していく。	・地域にある公立同士の関係から言えば、さらに就学前の幼稚園と小学校とが繋がり、よりよい連携を深めてほしい。	・幼小連携を深めていくためにも、小学校の学校運営協議会を幼稚園も一度参観してほしい。
	心と体・生活習慣	・生活習慣の定着に向けた保護者との連携・啓発 ・運動を取り入れたバランスの良い保育	・アンケート項目「基本的な生活習慣がついていると思いますか」「体力がついてきていると思いますか」 ・運動を保育の計画に取り入れているか	・できている97% ・体力向上97% ・実施後の週案の見直しにより、ほぼ毎日運動を取り入れた活動がある。	・生活習慣の定着に関しては、自分の子どもに対する保護者の評価は厳しい。 ・計画的に運動を取り入れた保育の記載が週案にある。	・早寝・早起き・朝ごはんの定着を家庭に啓発。 ・運動をとまなう活動を引き続き週案に明確化。	・2学期以降体力が備わってきた子どもの成長ぶりには、目を見張るものがある。「毎日の運動会」で運動量が増し、早く寝るようになった。	・PTAOBと連携しながら、子育ての先輩として伝えるべきことは伝えていきたい。
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・安心して生活を送るための教師との信頼関係づくり ・発達に応じた子どもの人間関係づくり	・アンケート項目「幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」「友達と元気に遊んでいますか」「生き生きと園生活が送れていますか」	・不登園児 なし ・安心・信頼 4歳児91% 5歳児100% ・自信・自己肯定感 100%	・教師との信頼関係ができ、喜んで幼稚園に来ている。 ・年齢に応じて、友達関係ができてなくて当然。心配のないよう保護者啓発が必要。	・人間関係の育ちを園内研修の事例から学んでいく。 ・子どもの心身の発達過程を意識して見ていく。	・どの子どもも不適応を起こさず、安心して登園できていることは、幼稚園が役割をよく果たしていると言える。	・今後も地域にある公立幼稚園としての子どもも受け入れられ、安心して通える幼稚園であってほしい。
園独自の項目	預り保育の充実	・預り保育の参加人数 ・保育者同士の連携 ・指導計画の作成・見直し	・預り保育の参加人数 ・アンケート項目「預かり保育は安心安全な遊びの場となり、喜んでいますか」 ・保育記録の作成と活用	・ほぼ全員が預かり保育に参加。 ・喜んで参加100% ・保育記録作成等による情報共有及び指導計画への反映	・預かり保育には喜んで参加している。内容についても少しずつ変化をもたせ取り組むことで充実。 ・記録等を活用し連携もできている。	・日常保育との繋がりを意識して具体的な活動の見直しを図り、より子どもが喜んで参加できるようにする。 ・記録等を活用して、引続	・幼稚園アンケートを見ると、就労に重きを置いている保護者の意見が増えているように思う。	・核家族化がさらに進み、今後就労等の保護者が増えてくると考えられる。預かり保育の重要性はさらに増していく。
	子育て支援の推進	・ひよっ子クラブの実施・充実 ・教育相談の取組 ・子育て支援センター等との連携	・ひよっ子クラブの参加人数 ・ほっこり子育て広場の実施回数(在園児)	・昨年度と比較し、20%程度増加傾向にある。 ・保護者はほっこり子育て広場に必ず1回参加している。	・登録数の増加により毎週にぎわい、子どもは喜んで参加している。 ・ほっこり子育ては既存事業で全員に実施できた。	・本来ある子育て支援の趣旨を忘れず、2年保育幼稚園教育の良さをアピールして入園に繋げていく。 ・引続き実施していく。	・待賢幼稚園PTAOBが中心となった「お話し会」は、親が孤立して不安感に陥らないための子育て支援として大切なものであ	・子育て支援推進に向けは、地域との連携により関係機関との繋がりをさらに大切にしてほしい。
	情報発信の充実	・ホームページの更新 ・地域への情報紙の発行 ・保護者への保育の説明	ホームページのアクセス数と地域・保護者からの反応	・アクセス数昨年比110% ・保護者からは高評価を得ている。	・ほぼ毎日更新できたことがアクセス数を増やした要因。 ・保護者からは、見やすく分かり易いという意見が多く、励みになる。	・更新内容の精査をし、幼稚園教育の理解が図れるような発信を心がける。	・毎日のホームページ更新はとても楽しみである。今後も情報発信の充実に向けて取り組んでほしい。	・地域への情報発信のためには、ひよっ子クラブ(未就園児対象)のチラシ等の配布に今後も協力したい。

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立待賢幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・行事主体から子どもの生活を主体とした保育 ・園内研修・エピソード研修の充実	・園だより「子どもの姿」による事例検討 ・アンケート項目「子どもはめあてをもって登園していますか」
	幼小接続の視点	・管理職による定期的な情報交換 ・「互いを知る」ための教職員研修や子どもの交流の推進	・定期的な情報交流 ・公開保育と研修の回数 ・アンケート項目「めざせ100冊親子で読書の取組は楽しめていますか」
	心と体・生活習慣	・生活習慣の定着に向けた保護者との連携・啓発 ・運動を取り入れたバランスの良い保育	・アンケート項目「基本的な生活習慣がついていると思いますか」「体力がついてきていると思いますか」 ・運動を保育の計画に取り入れているか
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・安心して生活を送るための教師との信頼関係づくり ・発達に応じた子どもの人間関係づくり	・アンケート項目「幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」「友達と元気に遊んでいますか」「生き生きと園生活が送れていますか」
園独自の項目	預り保育の充実	・預り保育の参加人数 ・保育者同士の連携 ・指導計画の作成・見直し	・預り保育の参加人数 ・アンケート項目「預かり保育は安心安全な遊びの場となり、喜んでいますか」 ・保育記録の作成と活用
	子育て支援の推進	・ひよっ子クラブの実施・充実 ・教育相談の取組 ・子育て支援センター等との連携	・ひよっ子クラブの参加人数 ・ほっこり子育て広場の実施回数(在園児)
	情報発信の充実	・ホームページの更新 ・地域への情報紙の発行 ・保護者への保育の説明	ホームページのアクセス数と地域・保護者からの反応

⇒

・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月23日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・子どもの遊ぶ姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「できる」94%	・主体的な遊びに連続性や広がりが見られるが、行事に追われた傾向がある。 ・保護者アンケートの結果は、前期より10%以上高かった。	・主体性が発揮できる遊びの環境構成をしていく上で、行事の精選と活用を課題として取り組んでいく。
・交流の年間計画実施率95% ・5歳児後半の指導計画の見直し 読書ノート活用度100%	・2回予定していた給食交流が1回となったが、ほぼ計画的に取り組むことができた。 ・100冊の達成率は95%	・交流の事前打合せだけでなく、事後も丁寧に行っていく。 ・1日1冊読書が親子で毎日楽しめるように保護者へ啓発していく。
・できている97%(前期と同じ) ・体力向上100%(前期と同じ) ・12月よりラジオ体操・朝マラソンを毎日取り入れた活動	・寒い時期になり、登園時刻が遅くなる傾向にある。 ・朝マラソンを始め、計画的に運動を取り入れた保育の記載が週案にある。	・早寝・早起き・朝ごはんの定着を家庭に啓発し、登園時刻を厳守させる。 ・強い体づくりのために、室内に閉じこもることなく外での活動を引続き週案に明確化。
・不登園児 なし ・安心・信頼 4・5歳100% ・自信・自己肯定感100%	・遊びや行事などを通して、年長は年少へ気遣いができるようになり、小規模園ならではの子ども同士の関係ができてきた。	・子どもの内面の育ちをエピソード研修で学ぶ。 ・子どもの心身の発達過程を意識して捉え、保護者に語れるようにする。
・年間を通し、全員が預かり保育に参加。 ・喜んで参加100% ・保育記録作成等による情報共有及び指導計画への反映	・個人の遊びだけでなく、キッズサッカーなど楽しめる内容も取り入れ、参加者数が増加してきた。 ・保育者が記録等を活用し連携もできている。	・日常保育での遊びが広がる環境構成を意識し、子どもが主体的に遊べるようにする。 ・記録等を活用して、引続き保育者間連携を図る。
・年間の登録者数69組、参加延べ人数1262人、昨年度より3割増加。 ・保護者はほっこり子育て広場に必ず1回参加して	・リピーターによる口コミで参加者数が増加し、毎回賑わいを見せている。 ・既存事業のほっこり子育てでは、全員に実施できた。	・本来ある子育て支援の趣旨を忘れず、2年保育幼稚園の良さをアピールして入園に繋げていく。 ・引続き実施していく。
・アクセス数昨年度より3,000件以上増加。 ・保護者からは高い評価を得ている。	・ほぼ毎日更新できたことがアクセス数を増やした要因。 ・見やすく分かり易いホームページの感想をいただき、励みになる。	・更新内容の精査をし、幼稚園教育の理解が図れるような発信をさらに心がける。

=

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月1日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・園行事に参加できない保護者がいることは驚きである。 ・生活発表会は、日々の保育が生かされた子どもらしさが見られた。	・子どもの育ちを地域やPTA.OBでしっかりと見守り、支えていきたい。
・幼小連携では、互いの学校運営協議会を知ることが大切である。 ・小規模園ならではの、運営組織ができるとよい。	・幼小連携の大事さは、教育の接続と共にPTA同士が繋がることにある。 PTA.OBで繋がる仕組みづくりも考えていきたい。
・登園時刻を守ることは、家庭教育の大事な取組の一つである。 ・12月以降毎日続けた朝のラジオ体操やマラソンは、健康的な体づくり・体力向上に繋がった。	・子育て等の悩みは子育ての先輩であるPTA.OBと連携しながら、相談できる場を設けていきたい。
・途中入園の子どもも安心して登園できており、安心できる幼稚園としてよく役割をよく果たしていると見える。	・今後も地域にある公立幼稚園として、どの子どもも受け入れられるよう地域もその姿勢を大事にして取り組んでいきたい。
・長時間預かり保育が増加していたことで園行事にでられないだけでなく、PTA役員選出や活動の今後が心配である。	・長時間預かり保育の増加は、就労等による家庭の増加でもあるため、園だけでなく地域も行事の精選をしていく必要があるように思う。
・待賢幼稚園PTA本部役員だけが頑張りすぎず、OBとの繋がりも生かした子育て支援活動を当たり前にしたい。	・子育て支援推進に向けては、地域やPTA.OBを学校運営協議会組織に巻き込めるよう協力していきたい。
・幼稚園の活動風景を見ることが楽しみである。今後も情報発信の充実に向けて取り組んでほしい。	・ひよっ子クラブ(未就園児対象)のチラシ等の配布は、地域への情報発信のために今後も協力したい。

3 総括・次年度の課題

- ・幼稚園に対する信頼度を高めていくためには、安全第一とした園運営を行っていくと共に、主体性や協同性等が培える遊び込みを大事にした日常保育の充実が欠かせない。
- ・地域の小学校とより繋がっていくためには、管理職だけでなく教員同士の交流も大切であり、事前の話し込みや幼小連携の取組を計画的に行っていく必要がある。
- ・子ども・子育て支援新制度実施2年目の今年度は、18時までの預かり保育が年間を通じて延べ3,300名以上利用があり、長時間預かり保育の参加者も増加傾向にある。今後はさらに指導計画に基づき、日々の保育内容が預かり保育に繋がりが生かされていくことが求められる。
- ・就労家庭が増加傾向にある中で、園行事への保護者参加のあり様については検討していく必要がある。またPTA活動についても、行事の精選や活動内容の検討が必要な時期となっている。
- ・子育て支援の一つとして実施している0～3歳の親子が集える「ひよっ子クラブ」では、地域やPTA.OBによるボランティアが随時サポートできる仕組みを作っていくたい。

